

# 平成30年度 小平第二みどり作業所 事業実績報告書

## 1 総括

就労事業充実の為の事業再編後2年度目の30年度は、利用者の仕事に対する意識や技術の向上、工賃向上、またそのために必要な職員のスキルアップを具体的な重点目標に掲げた。

利用者の就労に対する支援においては、支援計画の策定、実践、評価、見直しの基本的なサイクルの実践力強化に取り組んだが、職員の離職などにより、支援体制の全般的な底上げは不十分であったように感じている。ただし、日常の様子観察やそれに基づく支援方針等についての職員間のコミュニケーションは29年度と比較して向上がみられ、利用者の作業意識や技術の向上は少しずつ見られてきている。また、作業収益についてもクッキー、パンの販路拡大の効果があり、29年度より拡大され、就労支援の充実に向けてやや前進がみられた年であった。

また、30年度は新たな課題として、利用者の相談支援の重要性が浮き彫りになった年であった。一部利用者の気持ちの安定のために、相談に多くの時間と労力を費やす場面が増えており、就労支援の充実の為にもこの課題への対応が必要となってきた。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 42名 (平成31年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 11名 (平成31年3月31日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	2名	(常勤換算2.0)
生活支援員	6名	(常勤換算5.5)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 就労支援
  - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
  - ② 生き生きと働ける職場
  - ③ 職業指導の充実
  - ④ 賃金の保障
  - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
  - ① 日中活動の支援
  - ② 豊かな生活の支援
  - ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
  - ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
  - ⑤ 利用者への相談支援
  - ⑥ 安心できる将来への支援

## 5 実施事業 (活動内容)

- 1) 就労支援事業
  - ① クッキー製造・販売

- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 緑化推進事業
- ⑥ 受注作業（ポスティング作業等）

## 2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

## 3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 障がい者運動会
- 7月 多摩六都科学館
- 8月 川遊び、みんなの音楽会
- 9月 小平ふれあい下水道館、ブリジストン TODAY
- 10月 一泊旅行（茨城県酒沼方面）
- 11月 マヨテラス
- 12月 忘年会
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 カラオケ
- 3月 防災訓練

## 6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～ 9:00
朝 礼	9:00～ 9:15
準 備	9:15～ 9:30
作 業	9:30～10:30
休 憩	10:30～10:45
作 業	10:45～11:45
片付け	11:45～12:00
昼休み	12:00～13:00
昼 礼	13:00～13:05
準 備	13:05～13:15
作 業	13:15～14:15
休 憩	14:15～14:30
作 業	14:30～15:30
終 礼	15:30～15:50
送 迎	15:50～16:30
清掃・記録等	16:30～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

## 7 重点課題・目標に対する成果と課題

### 1) 活動

#### (1) 利用者の就労支援の充実

- ① 作業技術の向上と作業の可能性の伸長
- ② やりがい、責任感など職業人としての意識の醸成

#### 【成果と課題】

- ① 昨年度下半期より導入した作業支援計画書を基に、日々のミーティングなどを通して利用者個々の目標、課題、到達度などを職員間で情報共有することに努めた。計画に沿った継続的な作業指導により、クッキー、パン製造における作業技術の向上や従事する作業種の広がり

などの効果が約半数以上の利用者に見られた。

- ②作業支援計画を基に、個々の課題や目標の他、その日の生産目標等を本人へ伝えることにより、自分の仕事に対する理解が進み、責任感の向上が見られるようになった。複数の利用者から「この作業は最後までやり遂げたい」などの発言が聞かれた。

## (2) 就労支援事業の収益拡大

①クッキー事業 目標売上 30年度6,900,000円(前年度実績 6,800,000円より10万円増額)

A) 担当職員の技術向上

B) 販路拡大(積極的な営業活動)

- ・中元、歳暮等の贈答品の宣伝強化
- ・夏場の売り上げ減少期への対応

### 【成果と課題】

クッキーの売り上げは、下の表のように前年度比約7万円増となったが、目標の690万円には、1万円程度不足する結果となった。また、包装資材の高騰により、純利益は却って減少する結果となった。

#### 《クッキー売上》

	29年度	30年度	増減
総売上額	6,820,808円	6,889,845円	69,037円
純利益	4,909,337円	4,738,270円	△171,067円

#### A) 担当職員の技術向上

クッキー担当職員4名中、入職後2年未満の2名に対し、作業時間の管理、製造方法、人員配分等の作業の統括について先輩職員から指導を行なった。1名は11月に離職したが、1名は作業時間の管理に課題が残っているものの、クッキーの製造種類はシフォンケーキを除いたすべての種類が製造できるようになり、統括能力も全般的に向上が見られた。しかし、4名の内約4年勤務していた職員1名も10月に離職したことから、新規採用職員2名を新たに担当として配置することになり、事業全体としては職員の技術レベルの底上げは十分に行えなかったといえる。

#### B) 販路拡大

保育園や高校へ51件の電話連絡、3件の訪問等の営業活動を行い、保育園2件から注文があり、5万円程度の売り上げがあった。また、当法人の利用者、職員やその他関係機関等約500人に中元・歳暮ギフトの宣伝を行い、売上は約68万円あった。(前年度の中元・歳暮ギフト売上実績53万円)。このように販路拡大は行なうことができた。

#### C) その他

##### ア、新商品の開発(夏場の売り上げ対応)

夏場の売り上げ減少期に向けて3種類の新商品の開発を行い、内1種類を商品化したが、売上の増加には繋がらなかった。夏場の対策としての新商品開発は継続して取り組んできたが、長年売り上げの増加につなげていない。今後はクッキー以外の商品の開発が必要と考える。

##### イ、接客姿勢

上半期には顧客に対する姿勢も含めて事業所全体に販売意欲が感じられない場面が多々見られた。下半期に接客方法、電話対応のマニュアルを作成し、職員全体でサービス業の意識改善に向けた取り組みを行った。職員同士で意見交換や指摘が活発に行われるようになり、顧客への言葉遣いや注文の受付などは改善されてきている。しかし、接客業として、顧客目線で行動することは十分に会得できたとは言えず継続して確認する必要がある。

##### ウ、製造販売の計画性

売上目標が設定されてなく、上半期は、計画的な製造が行われていなかった。下半期から売上目標をたて、毎月職員会議で当月の目標数値と、前月の達成数値について職員全体で共有した。このことにより、職員個々が月々の売上をより意識するようになってきたこと、また、目標を達成するための対応策を考案するなど、少しずつではあるが販売意欲の向上に繋がってきていると感じる。また、製造個数管理表を作成し、日々の製造個数と在庫管理を徹

底することにより、当月の注文個数と販売回数から逆算して週単位、1日単位で製造しなければならない個数を算出し、計画的に製造できるようになってきている。

②パン事業 目標売上額 30年度2,600,000円(前年度実績2,280,000円)

A) 担当職員の技術向上

B) 生産性向上(目標 前年度1日70個 → 今年度100個)

C) 販路拡大

新規販売先開拓のほか、今年度より開始する市内都立高校のパン販売を安定して実施する。

#### 【成果と課題】

パンの売り上げは、下の表のように前年度比約53万円増の282万円となり、目標を20万円程度上回った。また、純利益も前年度比50万円程度増加することができた。

《パン売上》

	29年度	30年度	増減
総売上額	2,289,934円	2,818,169円	528,235円
純利益	1,376,124円	1,894,446円	518,322円

A) 担当職員の技術向上

対象職員1名に対して(1)のクッキー事業と同様の指導を行い、ほぼ同様の効果を上げているが、やはり作業時間の管理が課題として残っている。クッキー同様作業全体の速度向上が課題であるため、下半期より製造時間数の目標設定を行うことで、徐々に製造速度は向上してきている。パンの製造種類は昨年度の30種類から、38種類に増え、すべての種類が製造できるようになった。

B) 生産性向上

現状の設備では、1日に製造できる個数は200個と見ているが、29年度実績では平均で70個であった。30年度は、目標を100個に設定し、整理整頓、作業台の増台、作業人員の増加(4人から7人)等を行い、目標数の製造を可能にした。しかし、販路の拡大が追い付かず、結果的に1日90個の製造に押さえざるを得なかった。

C) 販路拡大

54件の販路開拓のための営業活動を実施し、市内の職業訓練校より定期販売の依頼があり、次年度より開始することとなった。今年度、小平南高校の購買部より出張販売の依頼があり、4月より月平均12日程度販売し、1日平均33個の売上があった。また、11月よりみくま店頭前での販売を開始し、月平均15日実施し、1日平均9個の売り上げがあった。

D) その他

ア、新商品の開発

14種類の新商品の開発を行い、内8種類を商品化した。8種類とも売上は好調である。

イ、製造販売の計画性

クッキー製造と同じ

③工賃向上

#### 【成果と課題】

前年度と比較して、就労支援事業の規模は大きくなっており、収益も伸びている。下の表では工賃は減少しているが、これは、前年度にプールしてきた収支差額120万円を年度末に支給した結果である。単年度で見ると、29年度の月額平均工賃は14,250円となり、1,765円の増額となる。

《就労支援事業収支及び月額平均工賃》

	29年度	30年度	増減
就労支援事業収入	10,533,668円	11,457,312円	923,644円
作業経費	3,084,976円	3,307,478円	222,502円

工賃支給総額	8, 197, 540円	7, 898, 580円	△298, 960円
月額平均工賃	16, 696円	16, 015円	△681円
単年度月額平均工賃	14, 250円	16, 015円	1, 765円

## 2) 人材育成

### (1) 施設長

- ① ケース記録、報告書等の記録作成について、自己のスキルと指導力の向上。
  - ② 行動観察等により職員の適正を把握する力の向上。
- E) 日常の活動に関しての理解を通じ、職員とのコミュニケーションを強化する。

#### 【成果と課題】

- ① ケース記録の確認は週1回の頻度となった。上半期の振り返りにおいて、職員の主観による記述や不適切な表現について、指導が不十分であるとの指摘を受ける結果となった。また、職員に法人や事業所の方針を明確に示す姿勢もやや欠けていたと考える。
- ② 上半期、利用者への支援や業務遂行において、問題がある場合はその都度指導を行ったが、改善状況についての確認は不十分となった。そのため、下半期は職員へ指摘した事項を記録し、改善状況の確認を行うことにより、継続した指導に取り組んだことで、効果が見られるようになってきている。
- ③ 上半期、日常活動の様子を把握するにあたり、職員とのコミュニケーションがやや不足していたように感じ、下半期は職員との個別面談から出来るだけ個々の状況に合わせられるよう職場環境の改善に努めた。

### (2) 職業指導員、生活支援員

- ① 作業支援計画を基に支援方針の統一を図ると共に、一人ひとりに丁寧な支援を実施する。
- ② 支援経過の記録を丁寧に行うと共に、ミーティング等で報告し合い、支援計画の実施状況や達成度について情報の共有を図る。
- ③ ②で共有した情報を基に、職員間で意見交換を行い、支援の充実を図ると共に、必要に応じた計画の見直しを行う。

#### 【成果と課題】

作業支援計画は職員間で共有され、計画に基づいた支援は概ね実施できたと感じている。また、ミーティングや記録等で支援経過についても共有が行われている。しかし、作業支援計画と個別支援計画の関連性が不十分で一体的な計画となっておらず、評価そのものがしにくい面があった。また、評価方法も抽象的な表現が多く、できたか、できていないかなどの客観的な表現での評価が不十分であった。下半期に書式の見直しとそれに伴い、全利用者の支援計画の整理を行ったことにより、徐々にではあるが支援計画と課題の関連性が結びついてきている状況である。

## 3) 経営管理

### (1) 給付費収入から事業種変更の検討

30年度の報酬改定に基づく訓練等給付費収入の試算を行い、中長期的に事業安定運営に必要な資金の確保が可能かどうかの分析を行う。生活介護への事業種変更も視野に入れて検討を行う。

#### 【成果と課題】

30年度は、1日平均利用者数約34人で施設会計の当期資金収支差額は約53万円となった。29年度の1日平均利用者数約33人、施設会計当期収支差額約300万円と比較して経営状態は悪化しており、報酬改定による給付費収入の減収が大きく影響している。安定的な事業経営のための給付費の増額の可能性を模索し、生活介護との多機能化の試算を行ったが、結果は却って給付費の減収につながった。スケールメリットを活かした経営に視点を変え、利用者の増加が経営に与える影響を試算し、最大限受入れが可能な1日平均42名（在籍50名、通所率84%）で計算をしたところ、収支差額は640万円程度となった。現在の事業形態のまま、利用者の増加で経営安定化を図ることが現時点では最適と考える。

### (2) 訓練等給付費の安定確保

① 1日平均利用者36名（前年度34名）を目標とし、利用者の安定通所を図る。

#### 【成果と課題】

1 1月中旬に1名が新規利用を開始し、下半期に実績は上向きになると見込んでいたが、1月と2月にそれぞれ1名が法人内の他事業所へ移動したことにより、結果的に今年度の1日平均利用者数は34.1名となった。

C) 工賃向上による給付費単価の向上

#### 【成果と課題】

前述のように、工賃の向上には至らず、給付費単価が上がる月額平均2万円を達成することはできなかった。2万円をクリアするには時給を現在の200円から350円に上げる必要があり、就労支援事業収入を月40万円増収させなければならない。就労支援事業の現状を考えると、短期間では達成が困難であり長期的な視点で検討していく必要がある。

### 8 その他の成果と課題

#### 1) クッキー製造事業における衛生管理の取り組み

今年度、異物の混入に関する報告は0件であった。引き続き、正しい手洗方法の確認や白衣および食品の管理方法に関する衛生保持について職員間で情報共有を図っていきたい。

#### 2) 利用者の気持ちの安定のための相談支援

5名の利用者に気持の不安定化が顕著な状況がみられ、その安定化の為に相談支援に多くの時間を割くこととなった。本人の就業能力向上のためには重要な支援であると同時に、就労支援との両立も課題となってきている。業務分担の工夫や支援技術の向上など対応が必要となっている。

### 9 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 244日間 (前年度 245日間)
- (4) 平均活動時間 7時間

### 10 利用状況

- 1) 利用者延人員 8,327人 (前年度 8,165人)
- 2) 1日平均利用人員 34.1人 (前年度 33.3人)
- 3) 体験実習者延人員 92人 (前年度 63人)
- 4) 1日平均実習人員 0.38人 (前年度 0.25人)
- 5) 実習者実人員 12人 (前年度 8人)

### 11 利用者状況 (平成31年3月31日現在)

#### 1) 年齢

- 20歳未満 3名
- 20歳以上30歳未満 15名
- 30歳以上40歳未満 9名
- 40歳以上50歳未満 9名
- 50歳以上60歳未満 5名
- 60歳以上70歳未満 0名
- 70歳以上 1名

#### 2) 障害の状況

- 愛の手帳 39名 (内身障手帳4名、精神保健手帳2名)
- 身体障害者手帳 5名 (内愛の手帳4名)
- 精神保健福祉手帳 4名 (内愛の手帳2名)
- 手帳不所持 0名

#### 3) 通所手段

- 送迎車利用 15名 (内2名家族送迎、5名交通機関)
- 交通機関利用 12名 (内5名送迎)
- 徒歩等 18名
- 家族送迎 4名 (内2名送迎)
- 4) 居住状況
  - 管内居住 32名 管外居住 10名
- 5) 性別
  - 男性 25名 女性 17名

1.2 利用者工賃

平均工賃	月額	:	16,015円	(前年度	16,696円)
	日給	:	947円	(前年度	1,004円)
	時給	:	282円	(前年度	299円)

1.3 生活支援PG実施状況

- 1) 実施日数
  - (1) PG実施日数 124日
  - (2) 週平均実施日数 2.3日
- 2) 利用者(平成31年3月31日現在)
  - (1) 利用者数 2人
  - (2) 利用者延人数 169人
- 3) 支援者(平成31年3月31日現在)
  - (1) 職員 5人
  - (2) アルバイト 6人
  - (3) 職員延人数 51人
  - (4) アルバイト延人数 118人
- 4) 内容
  - (1) ウォーキング 112回
  - (2) プール 56回

1.4 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実20名 延べ460名
- (2) 延実施回数: 137回

【月別実施状況】

実施月	実施回数	延参加人数
4月	: 11回	38人
5月	: 9回	40人
6月	: 11回	39人
7月	: 12回	40人
8月	: 11回	41人
9月	: 11回	38人
10月	: 12回	41人
11月	: 11回	36人
12月	: 13回	34人
1月	: 12回	37人
2月	: 13回	38人
3月	: 11回	38人
合計	137回	460人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
カラオケ	23回	129人

入浴	15回	42人
散歩	9回	10人
ドライブ	5回	5人
ボウリング	23回	103人
料理	13回	71人
ゲームセンター	2回	3人
プール	21回	44人
スポーツ	5回	9人
パソコン	12回	19人
テーブルゲーム	7回	20人
すいか割り	1回	4人
初詣	1回	1人
合計	137回	460人

#### 1.5 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

#### 1.6 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。